

H24 午後 2 問題 3 を評価して(Dさん)

2013/2/9

by koyano

先ず、私が考える、問題文から読み取れる題意と執筆上での留意点を述べます。

設問ア

1. プロジェクトの特徴と発生した利害が絡んだ問題

1.1 プロジェクトの特徴

特になし

関係者のプロジェクトでの立場、さらに私の立場(PM)もここで述べておく。

1.2 利害の調整が必要になった問題と関係者

問題文で挙げている 3 つの例(利用部門間、PM と利用部門、プロジェクト内のチーム間)

以上のどれかを利用する、あるいは近いものを想定する。取り上げるのは一つで良い。
そして深入りしない(イがあるから)。

設問イ

2. 関係者の利害の調整と問題解決

2.1 関係者それぞれの利害

特になし

現象として現れているそれぞれの利害の対立軸を明確にして述べる

2.2 利害の調整と問題解決 **[具体的に述べる]**

関係者が何を望み、何を避けたいかと思っているかなどについて十分に理解し、
関係者が納得するように利害を調整しながら、解決策を見出さなければならない。

ここで述べるのが勝負どころ**[具体的に述べる]**もここ。

本音を引き出すために、個別に相談したり、事前に複数の解決策を用意したりするなど、種々の工夫も必要である。

これは PM の工夫点が求められているので必ず述べる。

設問ウ

3. 評価、課題と改善点 **[具体的に述べる]**

3.1 利害の調整に関する評価

特になし

必ず対策したことの効果があったと記述する。

3.2 認識した課題

特になし

今後の改善点

3.3

特になし

B の評価とさせていただきます。

総評 以下の表の条件 3 の 2)Bが主原因です。私は把握に時間を要しました。採点者は、10分/論文だといわれていますので、一読でスッと頭に入る記述であって欲しい。

しかし、本論文が手書きで2時間30分程度、PC上での遂行が僅かであるなら上出来です。(条件5) まだ2ヶ月ありますので、「手書き」練習中心でいかれるのが良いとおもいます。

条件 1	最低限の記述スタイルが守られている	A
条件 2	1)字数制限が守られている	Aー 設問アの解答はチョットオーバーしたが、・・・
	2)読みやすい丁寧な字で記述されている	PC入力のため不明
条件 3	1)設問で問われている構成になっている	Aー 「1.2 利害調整を要する問題の発生」と問題を入れた題にしたい。
	2)問題文で問われている内容になっている	B 「S システム、新空調モデル、P 機能」の関係、状況が良く理解できませんでした。
	3)設問で問われている解答になっている	A 工夫が「個別面談」と「案の提示」で一般的だが、OK。
	4)意思決定のプロセスが記述されている	A
条件 4	1)試験区分の内容になっている	B 私PMは問題調整に活躍しているのは窺えるが、PMとしてグループリーダーやメンバに指示した等が全く見えない。
条件 5	1)結論から先に書かれているので分かりやすい	A
	2)理由が記述されているので分かりやすい	A
	3)具体例が記述されているので分かりやすい	B 設問イ、ウで[具体的に述べよ]と書かれているが、表現が弱いので、「具体的だ」と思わせられない。
条件 6	1)最低字数制限の1.2倍程度は記述されている	A
	2)各段落の記述量が適切である	Aー 「3.3 今後の改善点」は今一です。
条件 7	十分な知識が記述されている	A 「ファーストラッキング」等PMBOKの用語も意識して使用しています。
条件 8	定量的表現がされている	B 特に良いとは言えない。

個別に指摘しコメント・添削します

- ・ 設問ア、イ、ウの解答はその単位で改頁しましょう。本番試験でも用紙はそうになっているので、間違えることはありませんが。
以後、私の指摘は改頁した行のもので行います。

- ・ 2 ページ 1 行目、設問ア(1 章)は 6 字オーバーしましたが、本番でこうなりそうなら、2 行ほど前から、消して書き直しても短縮を実施すべきです。幸い 2 行ほど前に改行があるので、その後の空白を利用したらよろしいかと。

- ・ 1 ページ 16 行目、「1.2 利害調整の発生」

→設問の読み取りから、「1.2 利害調整 《を要する問題》 の発生」とすべきです。

- ・ 3,4 ページ目、

→最初読んだときは、「S システム、新空調モデル、P 機能」の関係が良く理解できませんでした。読み込み、以下のようにであると解釈しました。

計画時

製品(商品)名	機能分担	使用者	発売	P 機能
S システム	監視	サービスセンタ	サービスを発売 (10 年/11 月)	監視側の P 機能は未搭載(開発基準により)
新空調モデル	被監視	顧客先	製品を発売 (10 年/11 月)	発信側の P 機能は搭載

調整後

製品(商品)名	機能分担	使用者	発売	P 機能
S システム	監視	サービスセンタ	サービスを発売 (10 年/11 月)	監視側の P 機能基本は 搭載
新空調モデル	被監視	顧客先	製品を発売 (10 年/11 月)	・発信側の P 機能基本を 搭載 ・S システムへの提供は 2ヶ月前進 ・コンプレッサー性能予 測機能は 2 次開発

スツと理解ができなかった原因を 2 つ挙げてみます。

- ・ P 機能は S システムにも新空調モデルにも搭載されるのかされないのか、明確に分からない。
- ・ X 氏は S システムに P 機能の搭載を、Y 氏は新空調モデルの P 機能の搭載の時期を主張しているように読めますが、Y 氏は新空調モデルの P 機能の実証実験完了の時期を主張したいのでは。

もし表の解釈が間違っていたら、用語の使用が混然としているからだと思います。スッと理解してもらうには、S システム、新空調モデルでの使用用語を定義されることです。

・ 3 ページ 2,9 行目、「シリーズ」

→「シリーズ」という用語を使用されていますが、「ファーストラッキング」と対比されているので、これは「シーケンシャル」の意味で使用されていますね。「シリーズ」という言い方は今まであまり聞かなかったので、引っかけました。

・ 3 ページ 9 行目、具体的に述べる

「私はY氏とともに実用テストの方法について現在のシリーズ方式をファーストラッキング法で試験終了を早めることを検討した。そして、実用テストグループを3つに分割し並列に進めることで上記機能削減と合わせ2カ月短縮できることを確認した。」

→設問イの解答は、「具体的に述べよ」と指示されています。本論文では、サッと読むと、「どこ?」と思えるほど強調されていませんが、私は上記下線にあると思います。

以下のように、強調されてはいかがでしょう。

「私はY氏とともに実用テストの方法について現在のシリーズ方式をファーストラッキング法で試験終了を早めることを検討した。**具体的には**、実用テストグループを3つに分割し並列に進めることで上記機能削減と合わせ2カ月短縮できることを確認した。」

設問ウの「具体的に述べよ」では、以下です。

4 ページ 21 行目、具体的に述べる 以下のように、1. 2. と強調されてはいかがでしょう。

「3. 3 今後の改善点

私は以下の2点について改善を進めていく。

1. PJ 関係者の対外部署の責任者は不測の事態に備えて、必ず正と副2名を予め設定しておく。
2. PJ 立ち上げ以降に発生した関連部署の場合は、後工程に大きく影響はするので、特に注意する必要がある。

更に今回のケースを、PJ 教訓として全社で情報共有していくことにする。」

また、「更に良くする執筆上での留意点」の PDF を参考にしてください。

3 ページ 3,7 行目、

a 「基本機能に絞れば開発規模は 2/3 程度になるとの見解を得た。」

b 「当初開発の開発範囲を 2/3 に減らすことができた。」

1 ページ 26 行目、

c 「故障予知機能開発は開発元である開発部による実証試験が残っており、・・・」

→a,b と c の記述間でどうも違和感があります。開発のほとんどは実証試験を除いて終わっていると思っていたのに、まだ開発するものがあるのですか。「開発規模、開発範囲」ではなくて、「実証試験」ではありませんか。或いは、a,b は S システム側のことなのか。

・ 3 ページ 8 行目、

「私は Y 氏とともに実用テストの方法について・・・」

→実用テストの用語が出てきましたが、実証試験ではありませんか。

・ 3 ページ 13/14 行目、

「私は、今回の仕様追加による PJ 予算追加の認可を PJ オーナである W 事業部長に掛け合った。そして、追加 PJ メンバー 5 名の増員の承認を受けた。」

→予算とメンバの追加承認を PJ オーナから取り付けているこの記述はプラスに働きます。欲を言えば、以下のような展開にして、あなたの工夫点を強調されると更に良いです。

「プロジェクト憲章作成時点で、「S システムの仕様は、ライバル D 社の新モデル発売情勢により流動的であり PJ 途中で仕様変更がありうる。」ことはリスクとして判明していた。従って私は、リスクマネジメントの観点から、このことをリスク登録簿の上位に登録し、コンティンジェンシー予備を PJ オーナから承認してもらっていた。そのため、今回の予算とメンバの追加承認は非常にスムーズに行うことができた。」

・ 3 ページ 15/16 行目、

「このメンバーを P 機能実証テストに参加させることで開発部門の要員不足をカバーすることにした。このことで、実証試験の終了を短縮するとともに、P 機能の理解を高め、PJ 開発作業が効率的に進められることをも期待したからである。」

→PMのあなたが何から何まで決めてしまい、グループリーダやメンバの意見や経緯説明、決定事項の通知といった行動が読み取れません。一行でも二行でも述べおくべきです。

例えば、

「私は、プロジェクト定例会議で、S システムのスコープが拡張された経緯、結論を説明し、各メンバのアクティビティへの影響とあれば変更を指示した。」

・ 4 ページ 26 行目、

「そのため PJ 教訓として今回のケースを全社で情報共有していく。」

→最後のこの記述はプラスに働きます。

・ 全体で、「ファーストラッキング、PJ オーナ、PJ 教訓」

→PMBOK 重要用語を使用されていて、採点者に良い印象を与えます。しかし、多用すると嫌味にもなりますが。

以上